

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—カッコいい—

NO. 85



放デイの子ども達が大きく変わる（育っていく）時期が3つあるなと思っています。

ひとつは、自分の身の回りのことを、その子なりに整えられるようになってきたときです。学校からあんずに来て、荷物をさっさと整理して次のことに移っていくスムーズさが出てきたときです。“あんずに行ったらこれをしよう”と、やることを決めているのでしょう。急いで荷物を片付けてホールに向かう姿には、その子なりの手際の良さがあり“カッコよく”見えます。

2つ目は、遊べるものがあり、打ち込めるものが出てきた頃です。それが一日の支えになって、ちょっと面倒なことも嫌がらず取り組めたり、自分のことではないことを手伝ってくれたりしてきます。後ろ姿が颯爽としています。“あれがあるから頑張れる”ってカッコイイですね。遊べること、打ち込めるものがあることの大切さと有意義さを感じます。

3つ目は、中学生の制服が似合ってきた頃です。中学生になったばかりは、みんな制服に着せられている感じですね。でも、そこからの日常の中で、自分でやり遂げること（達成感）、お手伝い等で人の役に立つこと（成就感）、“僕って私ってなかなかやるじゃん”という自信（自己肯定感）を、学校でも家庭でも、そして習いごとや放デイのようなところでも経験していきます。人は誰かにOKを出してもらったり、習い事のクラスが上がったりすると、また頑張ろうという気持ちになりますよね。「こうしたい」「こうありたい」という目標が見えるから、頑張ることがそんなに苦痛じゃなくなるのでしょうか。そんな余裕のある姿がカッコイイ、素敵です。もちろん、少し背伸びをして届くような目標設定と、まわりの程よい期待感とその子への信頼が大切です。

これは、数日、数か月で育まれる姿ではありません。小さい頃、好きな遊びを見つけるところからスタートしています。そして「やった」「できた」「もう一回」と、繰り返し楽しめるものができて、遊びの幅が少しずつ広がり、そこに人がいてOKをもらい、何となく通じ合える友達ができ、その子なりに仲間を意識し始めます。徐々に、大人の手を借りつつも、自分のことは自分でやろうという“自律心”が芽生え始めます。その子なりに、自分を意識するようになり、カッコつけ始めます。気持ちもオシャレになってきます。どの子もです。そんな春夏秋冬を繰り返していくうちに、たくさんの人と出会い、世界を広げながら、“自分時間”や“自分らしさ”“ガソリン補給の仕方”を身に付けていきます。

これは、一般論でも作り話でもありません。就学前の小さい頃に出会っていた子達が、入学してあんずの放デイに移り、今日まで過ごしてきた幾つもの軌跡を綴ったものです。放デイのお迎えの時間に、お母さんやお父さんとのお話の中で、これまでのあれこれを振り返ることがあると、そんな話によくなります。毎日はいろいろあります。晴天もあれば、波高き日も。予定通りの航海もあれば、遅延、ドタキャン、回り道も。でも、船は元気に、カッコよく航海を続けています。

「大きくなって、こういうことがあると困るから、そうならないように今からこうしよう」なんて毎日じゃつまらない。「こういうことを少しずつ積み上げていくと、こんなにカッコよくなるよ」って、明日がちょっと楽しみになるように、そんな子育て、子育てであってほしいなと思います。それには、私たちも、少しだけオシャレにカッコよく過ごさなきゃ、ですね。(R5. 6) K

